

【 2024 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

<園名> 聖隷こども園 こうのとり東

目的：浜松磐田地区の聖隷福祉事業団のこども園・保育園及び関連法人のこども園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

評価日・評価者

評価日 2024 年 9 月 10 日

評価者 園名 聖隷こども園わかば

役職 園長 氏名 加藤 可織

評価者 園名 こうのとり保育園

役職 園長 氏名 梶山 美里

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

一人ひとりを大切にしたい教育・保育を達成するために、今年度4月より乳児はゆるやかな育児担当保育、幼児は主体性を大切にするために時間帯に幅を持たせ、コーナー保育を取り入れている。試行錯誤しながらも、実践と振り返りを重ね、子ども達が主体的に生活できるような環境作りに力を入れている。生活面は、担当保育士が毎日関わることで、その子にとって必要な関わりをキャッチし応答的な関わりをしている。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

年齢だけで考えるのではなく、子どもたち一人ひとりの成長発達に合わせた関わり、配慮を生活・遊びの面でしている。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

保護者や子どものプライバシーの保護、知りえた事柄の秘密保持は徹底されている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができていますか。

日々の中で保護者からのご意見には園長や主任等で対応を行なっている。また、必要に応じて保護者と面談を行ったり、園内で周知をし、対応をしている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

職員間の情報共有の他、保護者には掲示板やアプリのお知らせ機能を活用して情報提供をしている。また必要に応じて、行政への報告も適切に行われている。看護師を中心として、対応、取り組みがなされている。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

計画的に毎月避難訓練を実施し、園児や職員に対し防災対策を行なっている。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

必要に応じて、関係他部署の応援や指導を仰いでいる。
移転し新園舎が築10年を経過する。修繕やLED化も計画的に進められている。
0歳児の入園に繋げられるように、0歳児開放日を月2回継続して実施している。1号認定園児獲得に向けてホームページの充実も検討している。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

園内は清潔に保たれている。植物が園内外にたくさんあり、管理・維持がされている。また、生き物の飼育もされており、生き物が好きな職員が率先して世話をしたり、子どもたちと一緒に飼育を行なっている。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

環境の工夫が所々で感じられ、子どもたちも主体的に遊びを展開している。子どもの発達を促すような玩具や今の興味、関心が広がっていくようなコーナーが設置されていた。牛乳パック等を利用した手作り玩具等が保育に活かされていた。玩具の数やコーナーのスペース、ロッカーの位置等、学び合いながら検討中との事であった。より子どもが安心して、自ら遊び出し、集中して楽しめる環境が作られていくことが楽しみである。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに会う

- ・歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2歳児

- ・神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3歳児

- ・保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4歳児

- ・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

乳児：ゆるやかな育児担当制保育の中で、子どもたちは安心して生活をしている。思いを受け止めてもらいながら、子どもたち自身が生活の動線を理解し、排泄や手洗い等に自ら行く姿が見られ、落ち着いて生活をしている。

幼児：幼児は主体性を大切にするために時間帯に幅を持たせ、コーナー保育を取り入れている。園庭や室内で遊ぶか場所の選択等自分で決めたり、食事は食べるタイミングを自分で考えて行なっている。

【全体を通して】

職員の大きな声が響くことなく、全体的に落ち着いていました。保育方法が工夫され、今までとの違いに戸惑いながらも、一人ひとりが前向きに捉え、改善してきていくことが様々な場面で感じられました。真剣に保育と向き合い、子ども達の為にどうあるべきかを考えていました。今後、子ども主体の保育環境がどのように整えられていくのか大変楽しみです。面接では皆さんしっかりと自分の保育を語って下さいました。その上で振り返りもできていました。職員間の意思疎通、認め合いが出来ていくと、よりチームとして保育が深まっていくと感じました。改めて保育計画、PDCAサイクルを意識すること、そして共に語り、課題に向きあう事の大切さを痛感しました。ありがとうございました。